

# 「サイバーセキュリティセミナー2017」を開催

～サイバー攻撃から組織を守るためのセキュリティ対策を3氏が講演～

総務省北陸総合通信局（局長 吉武 久）は、北陸情報通信協議会（会長 久和 進 北陸経済連合会会長）とともに、平成29年2月16日（木）、金沢商工会議所会館で「サイバーセキュリティセミナー2017」を開催しました。セミナーには、国、自治体、ICT関連企業などから約100名が参加しました。

冒頭、主催者を代表し吉武局長が「当然にネットを利用、恩恵を享受しているが、不審なメールによる情報漏えいやウイルス感染も日常的に発生。IoT時代に向け、新たに生じるサイバーセキュリティの脅威に対応、国民のみなさまが安心してサイバー空間を利用できる環境の整備が求められる。」と挨拶しました。

盛況だったセミナーの様子

特別講演として、株式会社ラックの西本 逸郎取締役（専務執行役員CTO技術戦略担当 兼 CISO情報セキュリティ担当）が「昨今のサイバー攻撃とその対策の骨子 ～セキュリティ対策をブラックにしないためには～」と題して、昨今のサイバー攻撃の事例、その原因と個人ができる対策について分かりやすく説明されました。「サイバー社会では、(1)失うものを知る。(2)危険な行動を知る。(3)最低限必要な知識を知る。ことが必須」、「セキュリティ対策は、企業の経営者が率先して取り組まなければならない課題」、「社内でCISO※1の設置やCSIRT※2を構築するだけでなく、北陸地域の有力企業や公共機関など横断した共助体制の確立が必要」との認識を示されました。

※1 CISO:Chief Information Security Officerの略。情報セキュリティ統括役員

※2 CSIRT:Computer Security Incident Response Teamの略。シーサート

(株)ラック 西本 逸郎氏



総務省 参事官 大森 一顕



北陸先端科学技術大学院大学 齋藤 康弘氏

総務省の大森 一顕参事官（サイバーセキュリティ戦略担当）が「サイバーセキュリティ政策の最新動向について」と題して、政府全体のサイバーセキュリティ推進体制と総務省におけるサイバーセキュリティ施策を説明。2020年東京オリンピック・パラリンピックを想定した実践的な演習による人材育成の取組、増加するIoT機器を狙ったサイバー攻撃対策としての「IoTセキュリティガイドライン」、IoTセキュアゲートウェイの実証実験などを紹介しました。

北陸先端科学技術大学院大学 高信頼IoT社会基盤研究拠点の齋藤 康弘特任教授が「北陸地域におけるIoT利活用の現状とそのセキュリティ対策」と題して、北陸情報通信協議会イノベーション部会のワーキンググループで調査した北陸地域での官民のIoT活用の状況を紹介。「北陸全体として早急に取り組むべき事項としてIoTの波に乗り遅れず勝ち抜くために、スマートグラスやスマートテキストスタイルといった北陸地域にしかない強みを持ったシーズを積極的に発掘し、全国のニーズとのマッチングを図る機会を持つべき」など6つの提言をされました。